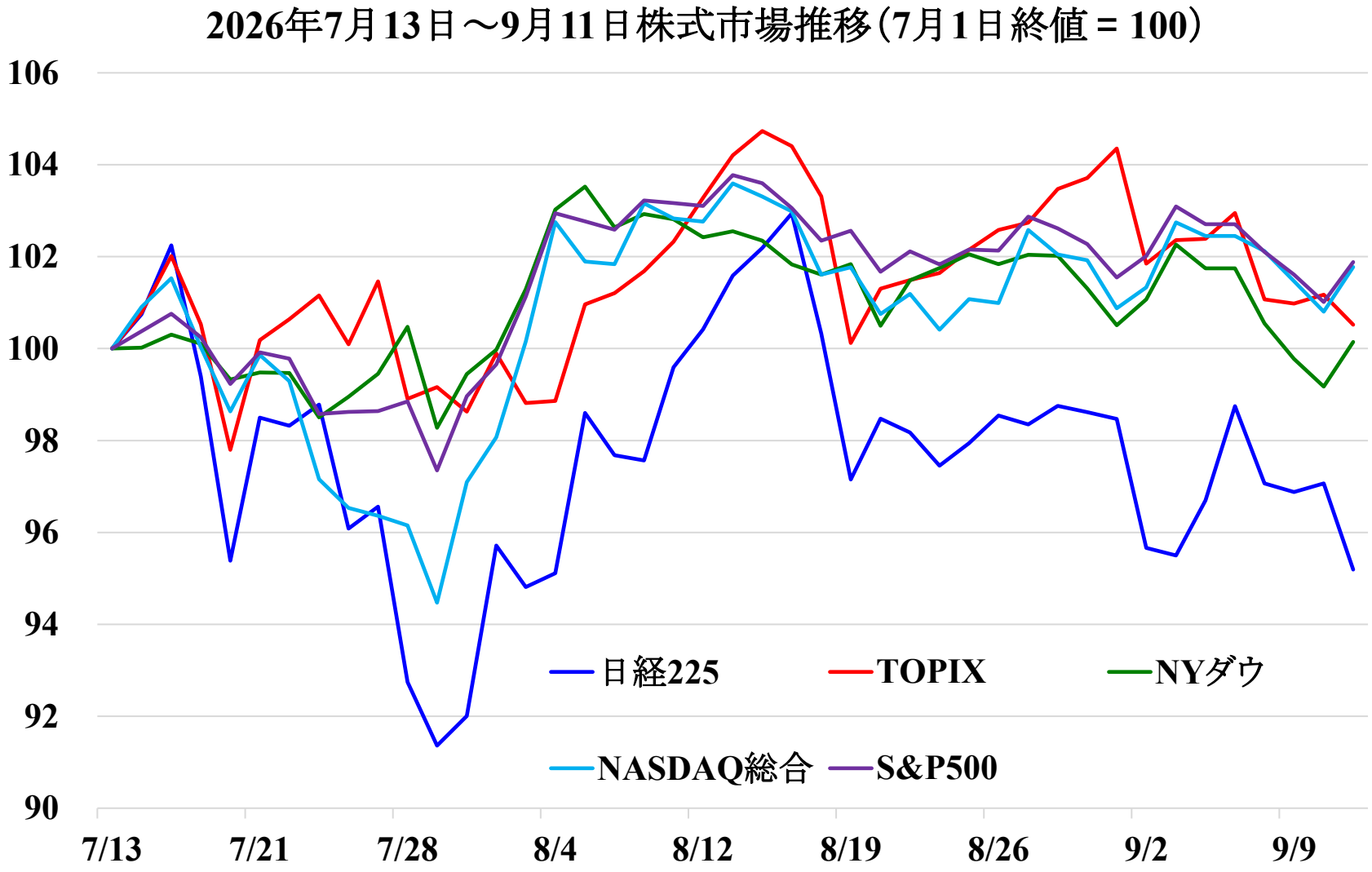


ストラドル・ストラングル

2026年9月16日

直近の株式市場


2026年7月13日～9月11日株式市場推移（7月1日終値＝100）
106
104
102
100
98
96
94
92
90
7/13
7/21
7/28
8/4
8/12
8/19
8/26
9/2
9/9
日経225
TOPIX
NYダウ
NASDAQ総合
S&P500

直近の日経平均日足


（円）
2026年7月17日～9月11日の日経225日足
70,000
69,000
68,000
67,000
66,000
65,000
64,000
63,000
62,000
61,000
60,000
7/17
7/27
8/3
8/10
8/18
8/25
9/1
9/8

ストラングルの買いの実例

「相場の向きは読めないが, どちらかに大きく動く」という相場観に基づき
同一限月の高い行使価格の OTMコールと低い行使価格の OTMプットの
同枚数の買い

実例：2026年9月4日15時15分ごろ 9月限日経miniは 65,000円前後
金利上昇の影響でボラティリティが上昇し, 相場は今後 1週間で
上下 1,500円以上動くと読み, 9月限行使価格 63500円ミニプットを 1枚
360円で, また 9月限行使価格 66500円ミニコールを 1枚 355円で買う
読み通り, 9月7日11時15分ごろに日経miniは 66,500円を超えたので
行使価格 66500円ミニコールを 840円で売って利益は 485円
一方, 行使価格 63500円ミニプットは 11日の SQ値 63,039.49円で決済し
利益は +100.51円　損益合計は +58,551円（= (485 + 100.51) × 100）

注）もし, 9月7日にコールを売るのと同時にプットを 93円売っていたら
プットからは 267円の損失が発生するので損益合計は 21,800円, さらに
もし両オプションを SQで決済したら, 損益合計は −25,449円となる

ストラングルの買いのポイント

(1)「ストラングルの買い = OTMコールの買い + OTMプットの買い」
という構造となる
→ 通常のオプション単独買いの倍程度の TDを食らうことを覚悟せよ

(2) コールとプットの「買い」は同時が基本だが, 利食いはその限りではない
→ コールあるいはプットの一方の利食いだけで十分な利益が出せたら
もう一方の売りは利の乗るタイミングを SQまで待つことも可能

(3) コールもプットも行使価格は, ATMから 1,500～3,000円程度 OTMに
設定して購入する
→ 相場水準とボラティリティの高さでこの OTMと ATMの幅は変化する

(4) 損失が発生したら損切りして撤退
→ 相場観に誤りがあったのだから負けを認めよう

参考：ストラングルの売りの実例

「相場はレンジ内の動き」という相場観に基づき，同一限月の高い行使価格の OTMコールと低い行使価格の OTMプットの同枚数の売り

実例：2026年9月4日15時30分ごろ 9月限日経miniは 65,000円前後
金利上昇の影響もかなり織り込まれてきたので，相場は今後 1週間で
上下 1,500円以内のレンジで動くと読み，9月限行使価格 63500円の
ミニプットを 360円で1枚，9月限行使価格 66500円ミニコールを 355円で
1枚売って SQを待つ
SQ値は 63,039.49円でコールは 0円，プットは 460.51円で決済し
損益合計は +25,449円（= (355 + 360 − 460.51) × 100）

注）結果として利益は出たが，ポジションを建てる段階で 20万円を超える
証拠金と，さらに途中の値洗いでは約 2万円の合計 22万円程度が必要
リスクとリターンのバランスは良くない

ストラドルの買いの実例

「相場の向きは読めないが, どちらかに大きく動く」という相場観に基づき
同一限月, 同一行使価格のコールとプットの同枚数の買い

実例：2026年9月4日15時15分ごろ 9月限日経miniは 65,000円前後
　金利上昇の影響でボラティリティが上昇し, 相場は今後 1週間で
　上下 1,500円以上動くと読み, 9月限行使価格 65000円ミニプットを 1枚
　890円で, また 9月限行使価格 65000円ミニコールを 1枚 915円で買う
　読み通り, 9月7日11時15分ごろに日経miniは 66,500円を超えたので
　行使価格 65000円ミニコールを 1,550円で売って利益は 635円
　一方, 行使価格 65000円ミニプットは 11日の SQ値 63,039.49円で決済し
　利益は +1,070.51円　損益合計は +170,551円（= (635 + 1,070.51) × 100）
注）もし, 9月7日にコールを売るのと同時にプットを 271円で売っていたら
　プットからは 619円の損失が発生するので, 損益合計は +1,600円となる
　また, どちらも SQで決済したら, 損益合計は +15,551円となる

ストラドルの買いのポイント

(1)「ストラドルの買い = ATMコールの買い + ATMプットの買い」
→ TDを最も多く失う ATMオプションを 2つも買っていることを意識せよ

(2) コールとプットの「買い」は同時が基本だが, 利食いはその限りではない
→ コールあるいはプットの一方の利食いだけで十分な利益が出せたら
もう一方の決済(転売)は利の乗るタイミングを SQまで待つことも可能
しかし, これが実現できるには理想的な相場の動きと読みが必要

(3) コールでもプットでも利食いが可能なときは, ITMになっていることが多い
→ 買い手が市場にいるのか? まともな価格で売れるのか?

注) こうして考えてみると, 高い価格の ATMコールと ATMプットを同時に
買うコストを利益が上回ることはなかなか難しいように感じる

参考：ストラドルの売り

以下の理由でこのポジションを取ることはお勧めしない

(1)リスクの大きさに比べ収益は限定的である

(2)前日比 3,000円の下落といった暴落の真っ只中でポジションを取るのなら
高い IVのおかげで高いオプションの売り代金が手に入り，かつ，その後の
IV低下から利益を生み出すことも可能かもしれない
しかし，そんな暴落中に冷静沈着な判断を下してオプションを売るのは
容易なことではない

(3)「ストラングルの売り」もそうであるが，オプション単独売りを組み合わせた
ポジションは，デルタ・ヘッジなどの高度なリスク管理の手法を身につけ
さらに経験を積む必要がある

参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

講師プロフィール

伊藤祐輔（いとうゆうすけ）
株式会社シンプレクス・インスティテュート　代表取締役
1976年早稲田大学理工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了．偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券（現シティグループ証券）に入社．株式部長, 株式デリバティブトレーダーとしてマーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券（現クレディ・アグリコル証券）に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年（株）シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

免責事項
当資料の内容は，投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり，投資の勧誘を目的としたものではありません．
投資に関する最終的な決定は，ご自身の判断と責任においてなさるようにお願い致します．
株式会社シンプレクス・インスティテュートでは，当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても，一切の責任を負うものではありません．

無断転載を禁ず
当資料の全部，または一部を無断で複写・複製・転載，および磁気・光記録媒体に入力することなどは，著作権法上の例外を除き禁じられています．

株式会社シンプレクス・インスティテュート
〒105−6223　東京都港区愛宕 2−5−1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階
URL：http://www.simplexinst.com

ご注意事項

•本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。

•必要証拠金額は当社証拠金（発注済の注文等を加味した証拠金×**100%**）－ネット・オプション価値（**Net Option Value**）の総額となります。

•当社証拠金、およびネット・オプション価値（**Net Option Value**）の総額は発注・約定ごとに再計算されます。

•証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。

•「**HYPER**先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクロージング開始時点の証拠金維持率（お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×**100%**で計算）が**100%**を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「**HYPER**先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×**50%**～**90%**の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。

•先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構の**WEB**サイトをご覧ください。

•指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。

•日経平均**VI**先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均**VI**先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ（20～30程度）に回帰するという特徴を持っています。
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うことになります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所 立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご留意ください。

金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります（信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所**CFD**（くりっく株**365**）、店頭**CFD**取引（**SBI CFD**）では差し入れた保証金・証拠金（元本）を上回る損失が生じるおそれがあります）。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、**SBI** 証券**WEB** サイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

金融商品取引法等に係る表示
https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html

商号等：株式会社**SBI**証券　（金融商品取引業者、商品先物取引業者）

登録番号：関東財務局長（金商）第**44**号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人 日本**STO**協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会